

グループ名 ・代表者名	ノーニュークス・アジアフォーラム・ジャパン 佐藤 大介	助成金額	30 万円
連絡先など	560-0082 豊中市新千里東町 2-4-D3-1106 sdaisuke@rice.ocn.ne.jp		
助成のテーマ	福島原発事故の全容をアジアに伝える ～脱原発に向けたアジア地域の新たな連携の構築をめざして～		

【調査研究の概要】

・ノーニュークス・アジアフォーラム 2011(日本で開催)において、アジア各国からの参加者が、福島を訪問したり、福島原発震災の被災者や市民活動家と直接議論をしたりする場を設け、参加者が得た情報や知識、成果を帰国後にそれぞれの言語でのパンフレット発行など何らかの形で発信してもらい、核も原発もないアジアを実現するための運動において、実践的な形で普及させることを目的とする。

【調査研究の経過】

NNAF2011(7月30日～8月6日、東京・福島・上関・広島)に、タイ、インドネシア、フィリピン、インド、台湾、韓国、中国から45名が参加

7月30日：「福島原発事故の経験を聞く」(中手聖一、大野和興、大賀あや子ほか)、7月31日：福島県民集会・デモ参加、8月1日：NNAF 国際会議、8月2日：経済産業省および東京電力との話し合い、8月5日：原水禁大会国際会議など

【現在までの成果と今後の展望など】

- ・韓国では8月24日に報告会、報告パンフレット(110ページ)発行
- ・インドネシアでは、8月25～27日に中部ジャワ3か所で報告会
- ・タイ、フィリピン、インド、台湾で報告パンフレット作成中
(また、台湾、タイでは、NNAF2011や福島についてテレビ・新聞で報道された)
- ・チェルノブイリ事故後にヨーロッパで反原発運動が広がったように、アジア各国での反原発運動の拡大が期待される

資金計画の概要 (金額単位：千円)			充当する資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費	日本国内滞在費補助(韓国・台湾・タイ・インドネシア・フィリピン・インドの参加者に対して)	2,300	300	0	2,000
資料費					
機材・備品費					
会議費		100			100
印刷費		200			200
協力者謝礼など		250			250
外部委託費		300			300
その他		310			310
合 計		3,460	300	0	3,160

参考文献(ウェブサイトや書籍、成果物など)

・ <http://www.japan.NoNukesAsiaForum.org>

福島原発事故後
アジア各国で反原発運動が拡大

タイ



カラシン、3月15日



4月24日、ウボンラチャタニ

韓国

サムチョク、4月4日

40団体で「共同行動」発足



ソウル、3月22日



コリ原発前、4月23日

フィリピン()



パタアン、3月17日

インド(ジャイタプール、
クダンクラム)



台湾(第四原発稼働反対、3.20デモ、4.30デモ)



インドネシア(6.11ジュパラで2000人)



● タイなどの原発建設計画の進行は「延期」

● 福島原発事故後のアジア各国での報道
「たいした事故ではない」「放射能汚染もたいしたことない」「被曝もたいしたことない」
「日本の人々はおとなしく、がまんしている」
「反対運動も少ない」

～福島事故以後、韓国の政府や報道機関は、日本国民の「沈着冷静な対応」だけをクローズアップしてきました。原発の事故にもかかわらず日本国民がよく我慢して耐えている、と
(韓国、スヨル)

日本でNNAF2011を開催することの意義

- 福島原発事故後に各国で反原発運動の高まりはみられたが・・・
日本のみならずアジア各国においても一面的な報道が主流となり、事故がどのような状況をもたらしているかが伝わらないことを痛感。
- アジアの仲間たちが、実際に現地を訪れ、現地の人々の声を聞くことにより、福島原発事故の全容を知ってもらおう。そしてそれぞれの国にもちかえてもらい、アジア各国に広く伝えることが、福島事故後のアジアにおける反原発運動の発展・連携の出発点となるのではないかと。

NNAF 2011

- 7月30日 「福島原発事故の経験」を聞く
- 31日 福島県民集会・デモ参加
シンポジウム「アジアへの原発輸出を考える」
- 8月1日 NNAF国際会議
- 2日 国会議員との勉強会
経済産業省・東電との交渉、東電前アクション
- 3日 上関原発反対運動と交流、祝島・田ノ浦へ
- 4日 原爆資料館見学、平和行進・原水禁大会参加
- 5日 国際会議「脱原子力にむけた構想力」
「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・フクシマ」アクション
- 6日 式典参加、中国電力抗議デモ・座り込み・集会

【海外参加者】

タイ: サンティ・C(持続可能性のためのオルタナティブ・エネルギープロジェクト)、ソツサイ・S(非核市民ネットワーク)、アビニヤ・M、コモル・P、サナン・K、スラッチ・I、アマリット・S、タンサカ・P

インドネシア: デイアン・アブラハム(反核市民連合)、ヌルディン・アミン(ナフダトゥル・ウラマー、中ジャワ州)

中国: ウェン・ポー(太平洋環境・北京)

フィリピン: ミツイー・チャン(非核バタアン運動ネットワーク)

インド: S.P.ウダヤクマール(反核運動全国連合)

台湾: 林碧堯、徐光容、林珮鈺、葉慈容(環境保護連盟)、李建誠、黃安調(環境保護連盟台南分会)、李秀容(環境權益促進會)、高成炎(綠党)、林長茂(綠色陣線)、謝欣芸(小学校教師)、崔煥欣、陳炯霖(綠色公民行動連盟)、李瓊月、陳慶鐘、張光宗、張岱屏(台灣公共テレビ)、李昭興(海洋大学)、呂秀蓮(前副大統領)ほか

韓国: イ・ホンソク、キム・ボンニョ(エネルギー正義行動)、パク・ジョンウン(参与連帯)、スヨル(社会進歩連帯)、イ・ユジン、シン・グンジョン(グリーン・コリア)、イ・ジウオン(環境運動連合)、キム・ヒョヌ(エネルギー気候政策研究所)、スズキ・アキラ(労働健康連帯)、パク・ジュンギョ(健康と代案)、ウ・ソッキョン(保険医療団体連合)、イ・ヨンフィ、カン・ユンジェ(カリック大学)

「福島原発事故の経験」を聞く

7月30日 東京麻布台セミナーハウス

- 福島原発事故の概要: 伴英幸
 - 放射能汚染と避難: 中手聖一
(子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク代表)
 - 事故による農業の被害と農民: 大野和興(農業ジャーナリスト)
 - 原発立地が地元社会に与えた影響: 大賀あや子
(廃炉アクション福島原発40年実行委員会)
- 「ノーニュークス・アジアフォーラム・ジャパン」ウェブページ(英・日)に掲載

「・・・最後、これから原発を持つという国の方々へ、計画されている国の方々へだが、体を張ってでもとめなくてはならない。冒頭に言ったが、私自身、後悔・懺悔の気持ちで一杯だ。原発のリスクを知っていたのに反対運動をしなかった。原発を容認してきた責任がある。子どもたちには、原発事故で被害にあうような責任は一切ない。福島の親は、自分のことだけであれば、がまんしてきた。がまん強く、声をあげないところを狙って原発は建てられる。しかし、今回は、自分ががまんすれば済む話ではない。子どもたちが犠牲者だ。二度と事故を起こしたくない。原発と人類は共存できないことを、今回の事故が教えてくれた。すでに原発を持っている国の人たちは、一日でも早く原発をとめましょう。」(中手聖一)

福島県民集会・デモ、原水禁福島大会



- ・「デモの間じゅうずっと放射能の暗い雨が降り、屋外の放射能レベルは通常の値の5～6倍になっていた。福島市は明らかに放射能で汚染されている」

(台湾、リン・ピーヤオ)

- ・「福島の子もたちや住民たちの命は危機に瀕している。放射能レベルが人々とくに妊婦と子どもに多大な健康被害をもたらすエリアに、100万人以上が住んでいる」(フィリピン、ミツイー)

経済産業省・東電との交渉



上関原発反対運動と交流、祝島・田ノ浦へ



中国電力抗議デモ・座り込み・集会参加

～タイでは、政府が人々にことあるごとに言います。「日本は原爆によって苦痛をなめた世界でただ一つの国だが、それでも日本の民衆は核エネルギーの使用を推進している」と。(タイ、サンティ)



The Nation紙、8月10日

(「メコン・ウォッチ」ウェブページより)

・・・エネルギー省が開催した「日本の福島原子力発電所事故とタイの電力管理政策への影響」と題するパブリック・セミナーには電力関係の様々な機関から約100人が参加した・・・

「原子力発電に反対するタイ市民のネットワーク」のコーディネーターを勤めるソッサイ・サンソーク氏は、「ウボンラチャタニ県の近い原発建設予定地に暮らしている人々は、今、将来に不安を感じている」という。「タイ発電公社(EGAT)は、政府が原子力発電所建設計画を延期したとしても、引き続き職員を送り、計画について住民に説明している。」

ソッサイ氏とネットワークの仲間は、昨日のパブリック・セミナーに参加し、7月29日から「ノーニュークス・アジア・フォーラム2011」と題する国際会議などに参加したことなど、日本での経験を共有した。

彼女は、福島原発の事故で影響を受けた地元住民と対話し、多くの住民が今も放射能汚染の影響を恐れていることを知ったという。

